

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

| | |
|--------|-------------------------------|
| 製品名 | : ペイントシーラント |
| 会社名 | : 株式会社創新 |
| 住所 | : 東京都豊島区上池袋4-11-16ノックストールビル3階 |
| 電話番号 | : 03-3918-3100 |
| FAX番号 | : 03-3918-3511 |
| 推奨用途 | : 自動車用ボディコート |
| 使用上の制限 | : 業務使用 |

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | | |
|-----------|----------------|------|
| 物理化学的危険性 | 引火性液体 | 区分3 |
| 健康に対する有害性 | 発がん性 | 区分1B |
| 環境に対する有害性 | 水生環境有害性 短期(急性) | 区分3 |
| | 水生環境有害性 長期(慢性) | 区分3 |

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性液体および蒸気
発がんのおそれ
長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

安全対策

熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースを取ること。
防爆型の電気/換気/照明等機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する措置を講ずること。
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

応急措置

皮膚または髪に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。

火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当を受けること。

保管

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
施錠して保管すること。

廃棄

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

成分

| 化学名 | 含有率 | CAS番号 | 化審法番号 | 安衛法 | | PRTR | 毒劇 |
|-------------------|----------|------------|--------|-----|-------|------|-----|
| | | | | 表示 | 通知 | | |
| 水素処理重質ナフサ*1 | 5-10% | 68551-16-6 | 9-2459 | ≥1% | ≥1% | 非該当 | 非該当 |
| 水素化精製軽質留出物(石油)*2 | 5-10% | 64742-47-8 | 9-1694 | ≥1% | ≥1% | 非該当 | 非該当 |
| 水素化精製重ナフテン系石油留分*3 | 0.5-1.5% | 64742-52-5 | 9-1692 | ≥1% | ≥0.1% | 非該当 | 非該当 |

*1: 石油ナフサとして

*2: ミネラルスピリットとして

*3: 鉱油として

4. 応急措置

- 吸入した場合** : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に診察／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合** : 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断／手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合** : 直ちに、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合** : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

- 消火剤** : 粉末消火剤、耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素、散水
棒状注水
- 火災時の特有の危険有害性** : 火災によってCO₂、CO、ホルムアルデヒド等の有害ガスを発生するおそれがある。
蒸気は引火点以上の温度では、火花、炎或は他の着火源により着火する。
蒸気は空気より重く、着火源までフラッシュバックすることがある。
空容器でも残留物が残っていると着火の危険性があります。
- 特有の消化方法** : 自給式呼吸器などのフル装備の保護具なしで火災現場に立ち入らないこと。
消火作業は可能な限り風上から行う。
危険な蒸気と分解生成物から安全な距離および安全な場所から消火する。

6. 漏洩時の措置**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置**

流出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用する。
風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

流出した製品の河川、水路、下水溝などへの流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材**回収**

少量の場合は吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸収させ取り除いた後、残りをウエス雑巾等によくふき取る。
多量の場合土砂等(の不燃物)で囲って流出を防止し、スコップ又は吸引機などから容器に回収する。

中和

「13、廃棄上の注意」に従い適切に処理する。

二次災害の防止策

こぼれた場所は滑りやすいために注意する。
 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い上及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(局所排気、全体換気等)

気中濃度を管理濃度、許容濃度或は推奨される濃度以下を保つために、適切な全体換気または局所排気を行う。

取扱者のばく露防止の記載

取扱いは、換気の良い場所で行う。

取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」にある混触危険物質と接触しないように取扱う。

衛生対策

取扱い後は、手、顔をよく洗い、うがいをする。

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で、容器を密閉し保管する。

日光から遮断すること。

安全な容器包装材料

オリジナルの容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

| | |
|-----|-----|
| 安衛法 | 未設定 |
|-----|-----|

許容濃度

| | | |
|----------|-------|--------------------|
| 日本産業衛生学会 | 鉱油ミスト | 3mg/m ³ |
| ACGIH | 未設定 | |

保護具

| | |
|------------|-------------|
| 呼吸用保護具 | 適切な呼吸器保護具 |
| 手の保護具 | ゴム手袋 |
| 眼の保護具 | 安全眼鏡、安全ゴーグル |
| 皮膚及び身体の保護具 | 長袖作業衣 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-----------------------|----------|
| 物理的状态 | 液体 |
| 色 | 白色／天然 |
| 臭い | 炭化水素臭 |
| 融点／凝固点 | 情報なし |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | 100°C |
| 可燃性 | 可燃性 |
| 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 | 情報なし |
| 引火点 | 43°C |
| 自然発火点 | 情報なし |
| 分解温度 | 情報なし |
| pH | 情報なし |
| 動粘性率 | 情報なし |
| 溶解度 | 水に対する |
| n-オクタノール／水分配係数 (log値) | 不溶 |
| 蒸気圧 | 情報なし |
| 相対密度 | 1 |
| 相対ガス密度 | 情報なし |
| 粒子特性 | 情報なし |
| その他データ | VOC <10% |

10. 安定性及び反応性**反応性**

情報なし

化学的安定性

通常の取り扱いでは安定。

避けるべき条件

知られていない、汚染

混触危険物質

強酸化剤、強酸、強アルカリ、酸性条件下でのアルミニウム合金

危険有害な分解生成物

二酸化炭素、一酸化炭素、ホルムアルデヒド、二酸化ケイ素

11. 有害性情報

| | | |
|-------------------------|-----------|---|
| 急性毒性 | 経口 | 飲み込むと有害。全身毒性を引き起こす可能性がある。 |
| | 経皮 | 情報なし |
| | 吸入 | 有害、全身損傷の可能性。 |
| 皮膚腐食性／刺激性 | | 中等度の皮膚刺激性。脱脂及び皮膚炎症の可能性。 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | | 中等度の刺激性、涙や発赤を起す。 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | | 情報なし |
| 生殖細胞変異原性 | | 製品や成分が変異原性や遺伝毒性を増加させることを示す情報はない。 |
| 発がん性 | | 癌を引き起こす可能性がある。 |
| 生殖毒性 | | 製品や成分が先天性欠損症の増加を示す情報はない。 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | | 情報なし |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | | 長期間或は繰り返しばく露することにより、中等度の呼吸器への刺激、めまい、脱力感、疲労感、吐き気や頭痛を引き起こす可能性があります。有害！長期間および繰り返しばく露することにより、全身の損傷を引き起こす可能性がある。 |
| 誤えん有害性 | | 情報なし |

12. 環境影響情報

| | |
|------------------|------------------------|
| 生態毒性 | この物質は長期継続的影響により水生生物に有害 |
| 残留性・分解性 | 情報なし |
| 生体蓄積性 | 情報なし |
| 土壤中の移動性 | 情報なし |
| オゾン層への有害性 | 情報なし |
| 他の有害影響 | 情報なし |

13. 廃棄上の注意**残余廃棄物**

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。

汚染容器及び包装

内容物を完全に除去した後に処分する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の規準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意**国際規制****海上輸送：****国連番号****品名**

IMOの規定に従う。

UN3295

炭化水素類、液体、他に品名が明示されていないもの（軽質石油留分溶液）

| | |
|--------------------|------------------------------------|
| 国連分類 | 3 |
| 容器等級 | Ⅲ |
| 海洋汚染物質 | - |
| 航空輸送： | ICAO/IATAの規定に従う。 |
| 国連番号 | UN3295 |
| 品名 | 炭化水素類、液体、他に品名が明示されていないもの(軽質石油留分溶液) |
| 国連分類 | 3 |
| 容器等級 | Ⅲ |
| 緊急時応急措置指針番号(NAERG) | 128 |
| 国内規制 | |
| 海上規制情報 | 船舶安全法の規定に従う |
| 航空規制情報 | 航空法の規定に従う |
| 陸上規制情報 | 消防法の規定に従う |

その他

転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
直射日光を避けて輸送する。

15. 適用法令

| | |
|-------------|--|
| 化学物質排出管理促進法 | 非該当 |
| 労働安全衛生法 | 通知・表示義務物質 石油ナフサ、ミネラルスピリット、鉱油 有機則 第3種有機溶剤等 石油ナフサ、ミネラルスピリット合計5%以上で該当。 |
| 毒物及び劇物取締法 | 非該当 |
| 消防法 | 危険物第4類 第二石油類 非水溶性 危険等級 Ⅲ |

16. その他情報

ITW Evercoat SDS reversion number 12

本SDSは下記規格に準拠して作成しています。

JIS Z 7252:2019 「GHSに基づく化学品の分類方法」

JIS Z 7253:2019 「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法

-ラベル、作業内容の表示及び安全データシート(SDS)」

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の実用を前提としたものであるため、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。このSDSは、新しい知見により予告なく改訂することがあります。